

中北.com

地域教育情報紙

チウホドットコム

山梨県教育委員会
中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

3

中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

高校生の意見発表

～令和元年度 青少年の非行・被害防止県民大会～

7月11日(木)、甲府市総合市民会館において、青少年の非行や被害を防止する環境作り推進の一環として、「青少年の非行・被害防止県民大会」が開催されました。300名を超える県、市町村関係者、教育関係者、警察関係者、青少年育成カウンセラー、青少年育成推進員などが出席するなか、長崎幸太郎山梨県知事の挨拶で始まったこの「青少年の非行・被害防止県民大会」では、長年に渡り青少年の健全育成に尽力されてきた青少年健全育成功労者3名の表彰、ソーシャルメディア研究会チーフ技術指導員 竹内 義博氏による「スマホ時代の現状と対策～実例から考える子どもの守り方～」の講演などとともに、2名の高校生の意見発表がありました。

北杜市立甲陵高等学校1年 清水 菜生さんは、『笑顔の力』というタイトルで、いじめという問題の深刻さについて語りました。清水さんは、「心はティーカップのように繊細なものであり、いじめはこのティーカップに大きなひびを入れ、家族から注いでもらった愛情さえもそのひびからどんどんこぼれてしまうように感じるほど心を壊すものだ。」と訴えました。



甲陵高校 清水 菜生さん

一方、山梨県立甲府西高等学校1年 窪川 葵さんは、携帯電話を通じた非常に短い、そして簡略化されたメッセージのやりとりの経験から、「速さ・便利さだけを追求するのではなく、相手を思い丁寧に自分の気持ちを伝え心をつないでいくことこそが真のコミュニケーションではないか。」と、『心はそこにありますか』というタイトルで訴えました。



甲府西高校 窪川 葵さん

「相手に伝えたい」「伝わる発表をしたい」という強い思いを持った2人の高校生による意見発表は、声の大きさや話すスピード、間の取り方や顔の表情まで工夫された大変素晴らしいもので、会場を埋め尽くした多くの参加者を魅了しました。

中北.com no.3 コンテンツ

- p1 青少年の非行・被害防止県民大会
- p2 放課後子ども総合プラン指導者研修会、北杜高校・ことぶき勤学院
- p3 巨摩高校・小笠原小・豊小、げんき夢子ども園・ひばり苑
- P4 敷島図書館、金田一春彦記念図書館

心と体を育てる運動遊びの体験を子どもたちに

～放課後子ども総合プラン推進事業指導者研修会～

7月16日（火）、山梨県放課後子ども総合プラン推進事業第2回指導者研修会が、県立青少年センター リバース和戸館体育室にて行われました。現在、核家族化の進行や保護者の勤務形態の多様化などを背景に、子どもたちが放課後や週末、また学校の長期休業中に、安心して豊かな体験ができる居場所づくりが求められています。そうしたニーズに応え、地域社会において子どもが心身ともに健やかに成長する環境づくりのための放課後子ども総合プラン推進事業が行われており、その一環として子どものための安全・安心な居場所づくりに関わる実践的な研修会が、各市町村の放課後子ども総合プランコーディネーターや指導員を対象として行われています。その2回目となる今回の研修は、県内在住のレクリエーション実践家である「きのいい羊達 わくわく運動キッズ」代表の大石英樹さん（イッシー先生）を講師に、準備の手間が少なく、費用があまりかからない運動遊びを学びました。



研修に参加した各市町村の放課後子供教室や児童クラブの指導者や支援員のみなさんは、大石先生の指導を受け、実際に牛乳パックなど身近にあるものを使って遊び道具を作ったり、アレンジを加えたドッジボールなどに挑戦しました。携帯ゲームなど、単独で身体を動かさない遊びへと子どもの遊び方が変化するなか、集団で身体を動かす運動遊びの指導法を学び、子どもの心と体の健全な発育と、社会性やコミュニケーション能力の育成を図る参加者の皆さんの熱心な様子が印象的な研修会となりました。

異世代間の交流①

山梨県立北杜高校 X 山梨ことぶき勸学院中北教室

7月11日（木）、山梨県立北杜高校にて、北杜高校生徒と山梨ことぶき勸学院中北教室2年生との交流会が行われました。社会の高齢化が進展する中、高校生が高齢期の心身の特徴や高齢者の暮らしについて知り、高齢者がより安全に、またより安心して生活できる社会の仕組みについて考えるとともに、いつか訪れる自分の高齢期への態度を形成することは重要なことであると考えられています。一方、山梨ことぶき勸学院中北教室の生徒の皆さんにとっても、これまでの人生で得た知識や経験を高校生と共有し、豊かな知恵を高校生という若い世代に伝えていくことは、大きな喜びです。三世同居が減少し、高校生が高齢者と実際にふれ合う場が少なくなった現代において、「家庭総合」という授業の一環として5年前から行われているこの交流会は、高校生にとっても、山梨ことぶき勸学院中北教室の生徒の皆さんにとっても、大変有意義なものとなっています。交流会は、北杜高校の生徒とことぶき勸学院中北教室の生徒がグループごと同じテーブルについて行われ、高校生から「大学や専門学校など、選択肢がたくさんあるからこそ迷いができる」といった進路についての悩みが語られると、「18歳で思い描いた通りに、人生はいかない。挫折は成功の素。何度失敗してもめげずに続けて欲しい。」とことぶき勸学院中北教室の生徒さんからエールが送られるなど、交流を通じて互いへの理解が深まる様子が見られました。



異世代間の交流②

山梨県立巨摩高校 X 南アルプス市立小笠原小学校・豊小学校

7月29日（月），巨摩高校2年生20名と小笠原小学校・豊小学校の児童10名が，身近な水環境である南アルプス市市之瀬川下流で，水生昆虫の採集と観察を行いました。今年で8年目となるこの研修は，自然の中で実際に採集を行い，昆虫の形態や生息場所などを比較・考察することで，科学的な見方や考え方を育てるとともに，自然への関心や親しみを高め，自然界にあるさまざまな生命とのつながりや環境について考える機会とすることを目的として行われています。また，高校生は小学生への説明というアウトプットの機会を得ることで，理解があいまいなところを明らかにしながら，プレゼンテーション能力の向上を図る一方，小学生は高校生から優しく指導してもらうことで，科学の魅力に気づき，想像力や観察力を高める狙いを持つといいます。小学生2名に対し指導役の高校生は4名。互いの自己紹介が終わるころには，すっかり打ち解けた雰囲気の中で水生生物の調査は始まりました。高校生も小学生も川に入り，網を使ったり，川底の石をひっくり返したり。小学生が楽しく調査に取り組めるよう，高校生たちは，生物調査技術者で地域自然財産研究所代表でもある篠田授樹氏の指導のもとで，事前に同じ川で採取の仕方などの指導を受け準備しておいたといいます。昼食後，今度は高校の実験室に場所を移し，採取したカワゲラ，トビゲラ，カゲロウといった水生昆虫の分類や同定を，実体顕微鏡を使って行いました。指導を受けた小学生，指導する側となった高校生ともに，探究することのおもしろさを実感した一日となりました。



異世代間の交流③

げんき夢こども園 X 介護老人保健施設 ひばり苑

7月30日（火），昭和町のげんき夢こども園において，介護老人保健施設ひばり苑の職員の方々を招き，福祉講話と実際に福祉用具に触れる福祉教育体験が行われました。げんき夢こども園に併設される小児科・アレルギー科のげんきキッズクリニックでは，病気やけがで保育所（園）や幼稚園，小学校などに通うことができない子どもの保育や看護（病児保育室ドリーム），また医療依存度の高い障がいを持つ子どもたちの日中一時支援事業（レスパイトケア）をおこなっています。そうしたことから，社会にはいろいろな特性を持つ人がいること，そしてその違いを認め合って生きていくことの大切さを，小さいうちから知ってもらいたいと今回の体験が実施されました。5歳児19名と小学校1～5

年生の児童10名は，まずひばり苑の赤池施設長からさまざまな福祉のシンボルマークの紹介を受け，「みんなが幸せに暮らすためにはこうしたマークの意味を知っていることが大事だよ。」と説明を受けました。次は実際に車椅子，シルバーカー，持ち上げ型歩行器などの体験。子どもたちはそれぞれの道具がどのように使われるのか興味津々で，ひばり苑の職員の方々からの指導を受け，真剣な表情で取り組んでいました。体験の後には振り返りも行われ，今回の体験から子どもたちが多くの気づきを得た様子うかがえました。



中高生のための短歌教室

甲斐市立敷島図書館

甲斐市立敷島図書館において、7月26日（金）および8月2日（金）の2日間にわたり「中高生のための短歌教室」が行われました。講師は2017年に第22回若山牧水賞、2018年に短歌の最高賞と言われる第52回迢空賞を受賞した歌人 三枝浩樹さん。三枝さんが甲斐市に在住していることが縁となり、中学生にも短歌に気軽に挑戦し、さまざまな言葉や表現に触れて欲しいとの思いから、3年前にこの短歌教室が始まりました。今回の短歌教室に参加した中学生は7名。1日目には三枝先生が選んだ短歌の鑑賞会、2日目には生徒それぞれが作ってきた作品に対する合評会が行われました。中学3年生の時に初めて短歌を作ったという三枝先生。思ったことや感じたことを表現できるのはささやかな喜びであり、ささやかだからこそその手応えは持続し、長い人生の良き相棒となる、と短歌の魅力を語ります。講座修了後には、生徒たちから「百人一首が好き。短歌の作り方の基本などを学ぶことができて良かった。」などの感想が聞かれ、自分の経験や感情を31文字で表現することの楽しさが伝わった短歌教室となりました。



中学生の職場体験

北杜市金田一春彦記念図書館



8月6日（火）、北杜市金田一春彦記念図書館で長坂中学校および甲陵中学校の中学2年生3人が職場体験を行いました。同図書館は、国語学者である故金田一春彦博士から寄贈された2万冊にもおよぶ貴重な蔵書や資料を収蔵した「金田一春彦ことばの資料館」を併設する図書館です。また毎年、中学生の職場体験を受け入れ、生徒が働くことの意義を理解し、学校で学んでいることと職業との関わりについて考える機会を提供しています。もともと読書が好きということで職場体験先に図書館を選んだという3人は、図書館司書の方々から指導を受け、カウンターでの本の貸し出しなど来館者への対応や、返却された本を整理して書棚へ戻したりといった業務を体験しました。この体験を通じ、「図書館はいろいろな年代の人とふれ合うことができる場所。本の貸し出しだけが業務ではなく、来館者の要望

に応じていけるようコミュニケーションを取ることが大切だとわかった。」と語る3人からは、実際に職場を体験することで、職業への理解とともに、自己の理解も深まった様子が見られました。

地域教育フォーラムの開催のお知らせ

～ぜひご参加ください～

日時 令和元年10月24日(木) 14:20～16:20

場所 甲斐市双葉ふれあい文化館ホール

研修会（講演会）子どもの心を育てるコミュニケーションに関する内容

講師 栗田 真司 氏 山梨大学大学院 総合研究部 教育学域 教育学系教授



令和元年度 『中北.com』 No.3

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援
担当：深澤 隆二・雨宮 靖子

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013